開講科目名／Course	コミュニケーション論	
ターム・学期／Term・Semester	2026年度／Academic Year　　１学期／First	
開講区分／semester offered	１学期／First	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	1	
主担当教員／Main Instructor	秋本　慶子	
担当教員名／Instructor	秋本　慶子	
必修・選択 ／compulsory subject	必修	
講義形態 ／Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	情報を「受信し」「理解し」「発信する」という視点からコミュニケーションを理解することを目的とする。前半では、文化や個人の傾向が、コミュニケーションを規定していることを知り、認識を客観視する「メタ認知」の視点を考える。中盤では、人間特有の受信の限界を認めたうえで、情報を届けるための配慮を学ぶ。後半では、個人の情報処理が「集団」と言う場において受ける影響を学び、集団との関わり方について模索する。	
到達目標	1. コミュニケーションが受信、理解、発信で成り立つことを説明できる。 2. 文化や知識が情報解釈に与える影響について、具体的な事例を挙げて記述できる。 3. 自分と異なる他者の価値観や知識、考え方の違いを踏まえ、自分の考えを効果的に伝える方法を列挙できる。 4. 「集団」と言う場がコミュニケーションに与える影響を説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性	
授業計画	01. 文化とコミュニケーション：異なる価値観に関わる 02. 自己理解とスキーマ 03. 情報を処理する 04. 情報を受信する 05. 情報を発信する 06. 集団における情報受信 07. 集団における情報処理 08. 集団で考えることの意味	
その他の授業の工夫	・学習の構えの形成促進のため、毎時「めあて」を提示する。 ・話し合いを通じて、他者との違いに気づき、それを共有する機会を持つ。 ・理論の理解で終わらず、実生活での実践につなげて考えられる機会とする。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容に関する予習（7h）。 事後学修：小テストや講義内容に関する事後課題を課す（15h）。	
評価方法と評価割合	数回の課題レポートまたは小テスト（70%）と受講態度（発言の積極性、コメント、質問、グループワークへの貢献度等：30%）により行う。	
テキスト	テキストは使用せず、毎回、ハンドアウトを配布する。	
参考書	対人援助の現場で使える 聴く・伝える・共感する技術 便利帖（翔泳社）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		